



【この活動の概要】

主な活動	アジア・アフリカ地域研究をテーマとする国際シンポジウムの開催
関係機関	ステレンボッシュ大学（南アフリカ）、関西大学（日本）、同志社大学（日本）
実施時期	2013年11月 第1回国際シンポジウムをステレンボッシュ大学（南アフリカ）にて開催 2014年7月 第2回国際シンポジウムを同志社大学にて開催 2015年7月 第3回国際シンポジウムを関西大学にて開催 2017年5月 第4回国際シンポジウムを関西大学にて開催

【先生に直接聞いてみました】

アフリカではアジア＝中国というイメージがあり、多様なアジアをアフリカの人々に認識してもらう必要があります。

—— この取り組みを始めた経緯は？

北川 ご存知のとおり、アフリカの国々が今アジアを向いていて、アジアとの関係性を深めていこうという動きがあります。ただ、アフリカではアジア＝中国という印象があり、“アジアの進出”といった場合にアフリカの人々の中では、それはイコール中国の進出という認識なのです。しかし、あまりにもアジア＝中国ということでは困りますし、日本や韓国など経済的に進展しているアジアの多様性をわかってもらわないといけません。そこで、アジアの国々の代表者も入れて、アフリカにおけるアジア研究のネットワークも作っていきましょうという動きが2011、2012年頃から始まり、アフリカの中に「The Association of Asian Studies in Africa」（アフリカにおけるアジア研究ネットワーク）（以下、A-ASIA）ができました。この組織の運営委員会に私が昔からよく知っている同志社大学の峯先生とステレンボッシュ大学（南アフリカ共和国）のスカーク先生が入っていて、2人の間で日本の中でアジア・アフリカ研究を広めましょうという話になり、私にも参加の打診がありました。そこでA-ASIAと日本の我々が協力して、アジア・アフリカ研究を広げる仕掛けを作りたいということで始めたのが、この国際シンポジウムです。





〔日本国内でのアジア・アフリカの研究と教育の発展を考えるシンポジウム（関西大学にて2016年5月開催）〕

第4回国際シンポジウムには、アジア・アフリカ地域研究を世界でリードしている研究者が集まりました。

—— 具体的にどのような内容か？

北川 2013年にステレンボッシュ大学で第1回の会合を開催しました。“Africa and Asia Entanglements in Past and Present”というアンブレラテーマの下で自由に研究しましょうということで始めました。その時に1回目はステレンボッシュ大学、2回目は同志社大学、3回目は関西大学で開催する取り決めをして、実際に第2回は2014年に同志社大学で、第3回は2015年に関西大学で開催しました。関西大学で国際シンポジウムを開催するために、関西大学の中に受け皿となる組織が必要となりましたので、経済学部北波先生と後藤先生に入ってもらってAASG(Asia Africa Study Group=関西大学アジア・アフリカ研究グループ)という組織を立ち上げました。さらにその後、アジア・アフリカ研究も大事だけれど、日本国内の高等教育機関がアジア・アフリカで生じている様々な現象を持続的に教育していく仕組みが必要だという話が持ち上がりましたので、サントリー財団の支援を得て関西大学で昨年(2016年)の6月にTICADと連携して教育に特化したシンポジウムを開催しました。

2013年頃からこの国際シンポジウムの仕事を続けてきたわけですが、この仕事は関西大学そのものの対外的なイメージアップをするには何が必要なのか、ということをやってきたとも言えると思います。そのためには何が必要なのかというと、世界的なレベルで学術活動を展開している研究者や機関とどれだけ結びつけられるかということだと思います。例えば2017年5月に開催した第4回国際シンポジウムには、アジア・アフリカ地域研究を世界でリードしている研究者が集まりました。スカーレット・コーネリッセン先生(南アフリカ ステレンボッシュ大学)、ペドロ・ラポーズ先生(ポルトガル ルシアダ大学)、クウィク・アンピア先生(イギリス リード大学)、それから峯陽一先生(同志社大学)。小さな会議ですが世界のトップレベルですよ。これにトクウンビ・ルムンバ・カソング先生(アメリカ コーネル大学)とセイフテム・アデム先生(アメリカ ニューヨーク大学)がいれば会合としてはどこにも負けないものです。この国際シンポジウムはこれまでに4回開催してきましたが、今後もこの活動が関西大学の中で引き継がれることを期待しています。





[ガーナで行われたアフリカにおけるアジア研究ネットワークの国際会議]

——苦労された点は？

北川 関西大学で開催した第3回国際シンポジウムの際は学内の補助金をいただくことができましたが、それでも予算が足りなかったため、シンポジウムの開催に協力して下さった皆さんの科研費などを持ち寄って不足を補いました。外国から14名の研究者を招いたわけですが、ビザ取得の事務手続きなども私がほとんど一人でやりました。大変でしたよ。会合がひと段落した後に報告集を発行しました。

第1回をステレンボッシュ大学で開催した時も、スカーレット先生が一人でシンポジウムを切り盛りしていたので非常に大変だったようです。開催地である南アフリカ共和国への往復の航空費については、日本からの参加者は自費でした。逆に関西大学で開催したときも、航空券代は出すことができなかったクワズールナタール大学の先生は自費で来てくれました。これまでのシンポジウムの費用は持ちよりでまかなくなりました。





[インドでのアフリカ研究国際会議]

今アフリカに関してはすごくビジネスも動いているし、これから学術のほうも動いていくかもしれないから、学生の交流も含めて考えてみたらどうかな、というのが私の意見です。

——今後の展開は？

北川 アフリカに関しては、アカデミックの分野の交流は遅れているけど、日本のアフリカビジネスをサポートするビジネスフォーラムは立ち上がっています。アフリカ開発銀行の極東事務所が東京にあり、アフリカビジネス支援のプラットフォームがあって大変進んでいます。学術関係の交流も広がりつつありますがまだ遅れています。しかし、今アフリカに関してはすごくビジネスも動いているし、これから学術のほうも動いていくかもしれないから、学生の交流も含めて考えてみたらどうかな、というのが私の意見です。

国際シンポジウムは先に述べたように4回やってきました。学内的な組織化はできてないけども、AASGを中心に動かしてきたのが現状ですね。関西大学では東アジア研究が活発ですが、おそらくこれからはインドなどの南アジアからインド洋西海域、そしてインドの西側からアフリカ大陸のインド洋側といったエリアとの教育と研究の交流が視野に入ってくると思っています。特に COMESA (Common Market for Eastern and Southern Africa=東南部アフリカ市場共同体) とは、学術ないしビジネスの交流がますます盛んになっていくでしょう。例えばケニアのナイロビで開催された第6回アフリカ開発会議 (TICAD VI) には日本から1000人もの参加がありました。ケニアのナイロビに1,000人という規模で日本人が集まるのは初めてのことでしたが、ビジネスの世界ではもうこのような規模で動いています。それを学術交流の方面にも持っていきたいと思います。

さらに、2009年くらいから A-ASIA とは逆に、アジアにおけるアフリカ研究のネットワークを作ろうという動きが出てきました。インドのジャワハルラールネル大学のアフリカ研究センターと韓国外語大学のアフリカ研究センターが組織を立ち上げ、日本のアフリカ学会、インド、韓国、そして中国でアフリカ研究を行っている北京大学と北京外国語大学が中心となっています。お話ししてきた国際シンポジウムを持続的にやっていたことや関西大学で AASG を立ち上げたのには、こういった動きを受け止めて我々が何をすべきかを考えようという思いがありました。このような世界の活動に関西大学が持続的に追いついていくためには、AASG のような機関が必要なのです。そうでないと関西大学はアジア・アフリカの地域間交流活動に乗り遅れてしまうわけです。AASG を基に拠点を形成して、例えば研究センターとして展開していくというようなことができれば、関西大学のグローバル化の担い手の一つになると思います。

実は、この国際シンポジウムは今後も続けていこうという話になっています。2017年5月の第4回国際シンポジウムの2日目にラウンド



テーブルディスカッションをしたときに、3年に1回開催されるアフリカ開発会議（TICAD）に合わせて3年毎にアフリカと日本で交替で「アカデミック・フォーラム」を開催していくという仕組みを作っていきたいという話になりました。関西大学から私の後継者が出てきて欲しいですね。



研究者氏名	北川 勝彦
所属学部・学科等	経済学部 経済学科 歴史・社会専修
職名（資格）	教授
専門分野	経済史、アフリカ(サハラ以南)地域研究
研究者情報	http://gakujo.kansai-u.ac.jp/profile/ja/181bedd901va6aaf5eac891y-dab4.html

AASG

AASG ウェブサイト

<http://www2.kansai-u.ac.jp/AASG/index.html>

発行：関西大学国際部 <http://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/>



KANSAI UNIVERSITY